

## 令和 7 年度秋期 情報処理安全確保支援士試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2025,12,25

10 月 12 日（日）に行われた令和 7 年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。IPA から発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、情報処理安全確保支援士試験の分析コメントをお知らせします。

### ■情報処理安全確保支援士試験（SC）

〔令和 7 年度秋期 情報処理安全確保支援士試験 統計情報〕

応募者	26,385 人
受験者	18,816 人
合格者	4,199 人
合格率	22.3 %

平成 29 年春期から始まった情報処理安全確保支援士試験（旧情報セキュリティスペシャリスト試験）は、令和 5 年度秋期試験から午後 I と午後 II 試験が一つの午後試験に統合されました。今回の令和 7 年度秋期の合格率は 22.3%で、前回の 19.0%から約 3%も上がりましたが、これまでで最も高い合格率でした（2 番目は令和 5 年度秋期の 21.9%）。

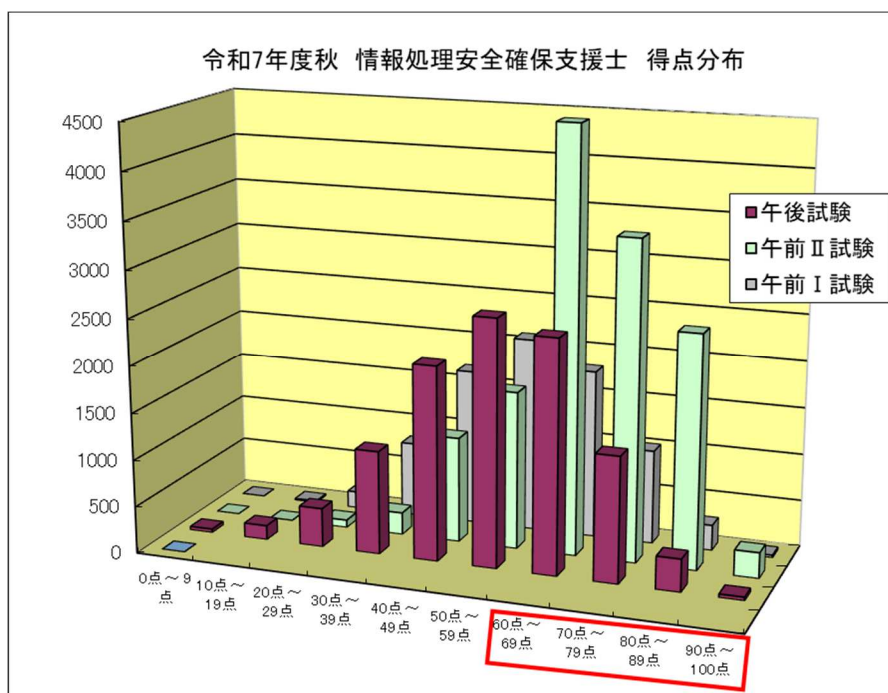
午前 I 試験免除の人も多いのですが、今回の午前 I 試験は前回と比べて少し解きやすい内容でした。また、午前 II 試験の出題内容が平易で、午後試験でも苦手意識をもつ人が多いセキュアプログラミングの出題が少なかったことから、合格率が上がったと思われます。発表された得点分布の分析とグラフを示します。

〔令和 7 年度秋期 情報処理安全確保支援士試験 得点分布とグラフ〕

得点	午前 I 試験	午前 II 試験	午後試験	合格者
0 点 ～ 9 点	1	0	37	
10 点 ～ 19 点	17	1	152	
20 点 ～ 29 点	179	80	416	
30 点 ～ 39 点	802	237	1,104	
40 点 ～ 49 点	1,672	1,128	2,070	
50 点 ～ 59 点	2,087	1,684	2,627	
60 点 ～ 69 点	1,798	4,524	2,481	
70 点 ～ 79 点	1,006	3,395	1,334	
80 点 ～ 89 点	272	2,482	348	
90 点 ～ 100 点	26	273	36	
計	7,860	13,804	10,605	4,199
対前試験比率		175.6%	76.8%	39.6%
午前 I 免除者（概数）	10,956	58.2%		

合格者数	4,199	採点者数の割合	合格者数との差
午前 I 60 点以上合計	3,102	39.5%	-1,097
午前 II 60 点以上合計	10,674	77.3%	6,475
午後 60 点以上合計	4,199	39.6%	0



午前Ⅰ試験免除対象の人は増える傾向がありますが、得点分布の結果を分析してみると、今回情報処理安全確保支援士の午前Ⅰ試験の免除者は概算で 10,956 人 (58.2%) いて、受験者の 6 割近い人が午前Ⅱからの受験となっています。この午前Ⅰ試験で基準点 60 点以上取ることができた人は 3,102 人 (受験者の 39.5%) で、前回の 39.8% とほぼ同じです。前々回までは約 50% の人が 60 点以上でしたので、今回と前回の午前Ⅰ試験は少し難しかったといえます。なお、50 点～59 点の“あと一歩”の人が 2,087 人 (26.6%) と 3 割弱の人がいて、問題が難しいときにはこの得点範囲の人が増えることから、出題範囲が非常に広い午前Ⅰ試験対策は早めに計画を立てて、確実に進める必要があります。

午前Ⅱ試験で基準点以上的人是 10,674 人 (受験者の 77.3%) で、前回の 83.8% から減っていますが平均的な結果です。今回の試験は最近の過去問が多く、内容も比較的平易でしたが基準点以上の人の率は上がりませんでした。

午後試験は、以前の午後Ⅰと午後Ⅱ試験が一つに統合されてから 5 回目の実施になりますが、基準点 (60 点) 以上取れた人 (合格者数) は 4,199 人で採点数 10,605 人の 39.6% でした。前回の試験では採点数の 29.7% が 60 点以上だったので 10% 近く上がりました。

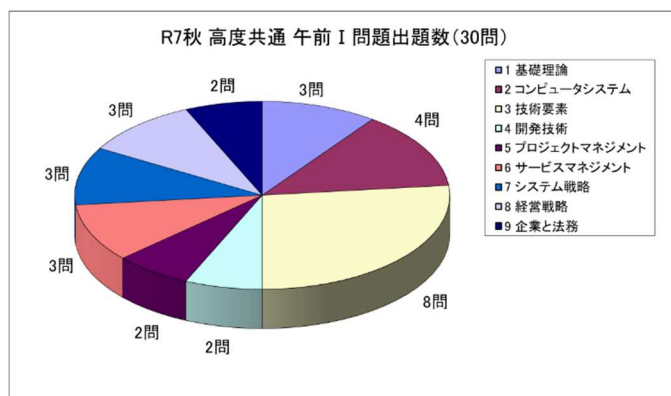
## ■令和7年度秋期 情報処理安全確保支援士試験の出題内容について

### 〔午前Ⅰ試験 (高度試験の共通知識問題)〕 30 問出題 / 30 問解答, 50 分

高度試験で共通して出される午前Ⅰ試験の 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) の午前試験 80 問の中から選ばれていて、テクノロジー系 17 問 (57%)、マネジメント系 5 問 (17%)、ストラテジ系 8 問 (26%) という出題比率です。

午前Ⅰ試験には免除制度がありますが、高度試験を受ける人の約 4 割が午前Ⅰ試験から受験しています。今回の午前Ⅰ試験で 60 点以上の得点で突破できた人は高度試験全体で 40.6% いましたが (前回は 44.6%)、平均的には 5～6 割の突破率なので、今回と前回の試験が難しかったことを示しているといえます。出題範囲が広いと問題を感じることが多く、最初の午前Ⅰ試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識を理解していく必要があります。

- ・今回の午前Ⅰ試験は、約 6 割が過去問題でしたが、難しい考察問題が減って、文章問題が増え、前回より解きやすい試験だったといえます。
- ・重点分野のセキュリティの出題数は前回と同じ 4 問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は 7 問で前回の 8 問とほぼ同じでしたが、難しい内容のものは少なかったといえます。

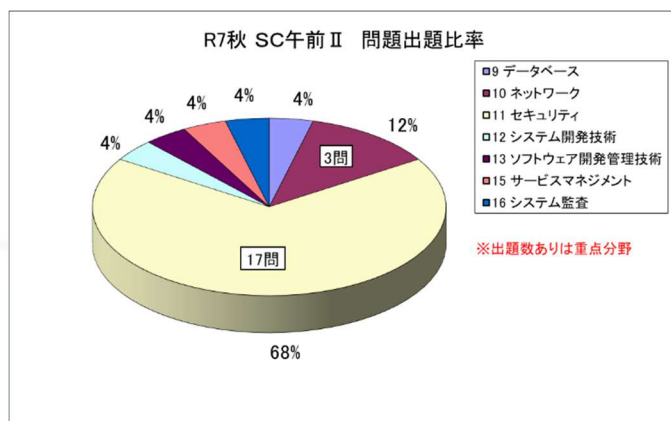


### 〔午前Ⅱ試験（専門知識問題）〕 25 問出題／25 問解答， 40 分

午前Ⅱ試験はセキュリティとネットワークの専門知識の出題数はそれぞれ 17 問と 3 問の合計 20 問で、前回と同じでした。

新傾向問題は 6 問（前回 8 問）ありましたが、すべてセキュリティ分野です。過去問題は約 6 割ありましたが、情報処理安全確保支援士試験の過去問題の出題は 12 問ありました（前回 13 問）。その出題年度は、R6 年秋が 1 問、R6 年春が 3 問、R5 年秋が 1 問、R5 年春が 2 問、それ以前が 5 問、というようにばらばらでした。

ちなみに、前回 R7 年春の試験では、R5 年秋と春の問題が 11 問も出題されていて、過去問が選ばれる傾向は毎回変わるといえます。



### 〔午後試験（記述式）〕 4 問出題／2 問解答， 150 分

令和 5 年秋から午後Ⅰと午後Ⅱの二つの試験が統合された午後試験は、4 問出題のうち 2 問を 150 分で解答する方式に変わりました。試験全体の時間が短くなったので受験者の負荷は軽減されましたが、今回の試験では、問 1 と問 2 が IT サービスを提供する側の組織のセキュリティ対策をテーマにした問題、問 3 と問 4 が IT サービスを利用する側の組織でのセキュリティ対策をテーマにした問題だったといえます。セキュアプログラミングの知識が多少必要といえる問題は問 1 だけで、問題選択の自由度は前回よりも高かったといえます。なお、問 2 で時流を反映した暗号資産交換業をテーマにした問題が出題されたことも注目すべき点だったといえます。

今回の試験では、ほとんどの設問が字数指定なしで自由に記述する形式でしたが、これは前々回の令和 6 年秋の試験も同じような形式でした。なお、問題文の量は問 1 と問 2 は 7 ページでしたが、問 3 は 11 ページ、問 4 は 10 ページあり、問題によってかなり異なっていました。

- ・問 1 コンサルティング業務で利用する SaaS（SaaS サービス提供会社） 普通
- ・問 2 暗号資産交換業におけるセキュリティ（暗号資産交換業社） 普通
- ・問 3 情報システムのセキュリティ強化（機械部品商社） 普通～やや難
- ・問 4 製造業におけるセキュリティ管理（部品製造業） 普通～やや難

午後試験で合格基準点をクリアするためには、情報セキュリティ全般に関する知識を十分に身に付けた上で、問題文に記述された内容をよく読み、本文や図、表に記述された条件などを丁寧

に整理して考えていきます。その上で、設問で問われていることを的確に把握して解答を作成する必要があります。試験の形式は古いですが令和 5 年度秋期試験まで出題されていた旧午後 I と午後 II 試験で問われる内容は今の試験と同じなので、演習問題としてうまく活用し、解答作成のコツをつかんでください。

## ■令和 8 年度の情報処理安全確保支援士試験の対策について

次回令和 8 年度から、応用情報技術者と高度情報処理技術者試験が PC で受験する CBT (Computer Based Testing) になることが IPA から公表されました。従来の記述式の設問も CBT で実施されることになっています。なお、情報処理安全確保支援士の午前 I と II の試験は A-1 と A-2 試験に、午後試験は科目 B 試験となり、名称は変わりますが出題内容は変わらないとされています。

まず、科目 A-1 試験 (旧午前 I 試験) 対策で気を付ける必要があることとして、出題範囲が非常に広いため、計画立ててなるべく早く試験対策を開始する必要があることです。過去の統計情報を分析すると、60 点以上取れた人は 4 割から 5 割台が多く、問題が難しいときには 3 割台のときもありました。また、過去に出題された高度の旧午前 II 試験の難しい問題も出題されることがあるので、過去に出題された応用情報技術者試験の問題を演習として活用して、日頃から知識を増やしていき、余裕をもって 7 割以上正解できるように理解度を上げてください。学習教材としては、これまで出題された出題内容のポイント事項と必須問題を重点的に解説したアイテック刊行の「2026-2027 高度科目 A-1・応用情報 科目 A 試験対策書」で効率よく学習を進めてください。

科目 A-2 試験 (旧午前 II 試験) ではセキュリティとネットワークの専門知識問題が出題されますが、科目 B 試験 (旧午後試験) で出題される事例問題の内容を理解するための必須知識といえます。応用情報技術者試験で出題されるセキュリティとネットワーク分野の知識を基礎として、さらに詳細な内容まで理解する必要がありますが、体系立てて専門知識まで解説をしている教科書として、アイテック刊行の「セキュリティ技術の教科書」があります。ぜひ、ご活用してください。

科目 B 試験 (旧午後試験) の対策としては、各問題の出題テーマに関連する専門知識を確実に理解し、問題事例に対して学んだ知識が適用できるようになるまで、しっかり演習を行う必要があります。以前は午後 I と午後 II に分かれていましたが、令和 5 年度秋期から一つの午後試験として実施されていますが、それより前の試験問題も問題文の長さや設問数は違いますが、問われている内容は今でも参考になりますので、演習問題として活用してください。なお、専門知識の中でも特に重要な内容について解説し、科目 B 試験問題の解法ポイントを実践的に解説した参考書として、アイテック刊行の「2026 情報処理安全確保支援士「専門知識+科目 B」の重点対策」がありますので、科目 B 試験対策の教材として、ぜひご活用してください。